



まえがき

北海道苫小牧市に幌内川という中小河川があります。北海道大学の苫小牧研究林の中を流れるこの幌内川では、建設省（当時）河川局が「多自然型川づくり」を提唱したよりも早く、1983年から川の自然を取り戻す試みが行われました。この川づくりの中心となったのが苫小牧研究林（当時の名称は苫小牧地方演習林）の当時の林長であった石城謙吉氏です。その石城氏が、自らの著書「森林と人間」（岩波新書 2008）の中で次のように述べています。

「こうした苫小牧地方演習林の川づくりが北海道のテレビや新聞などで紹介され、見学にも来る人が増えてきた頃、よく川づくりのマスタープランや年次計画を見せて欲しいと言われて困った。なかったからである。あるのは記録だけだった。行き当たりばったりの思いつきで川をいじって遊んでいるのではないかと、言われそうであった。そのとおりの気もした。これは難しい問題だと思う。仕事に計画が重要であることを否定する気は毛頭ない。だが、最初に計画がないのは非科学的だと言う前に、自然の取り扱いに関する科学の役割は、結果の解析のほうにあるという謙虚さも必要ではないか。林業にせよ、河川事業にせよ、自然に対する仕事がいちばん大きな過ちを犯すのは、計画が忠実に実行された時なのである。どれほどたくさんの自然が『計画遂行』の犠牲になっていることが。森づくり、川づくりには何よりも基本方針が必要である。しかしそれを実現する作業は、絵を描くのと似ている気がする。絵を描く時に、画家は構図の下書きはしても精密な設計図などは作らない。一筆一筆、色と形を確認しつつ、筆を重ねたり描き直したりしていく。自然に対する仕事も、本来はそういうものではないか。少しずつ、絶えず前の仕事を見直しながら、新たな工夫を加えて進めていく。それが理想だと私は思う。ただ、こういうやり方は現代社会の会社や官庁では仕事として成立しにくい。厳密な予定は立てられないし、発注も契約も非常にむずかしいからである。」

本書の発刊にあたって私が最も大事だと思っていたことが見事に凝縮された文章だったので、少々長く引用させていただきました。すなわち、多自然川づくりに取り組む者に最も求められるのは川の自然に謙虚に向き合うという姿勢であり、また石城氏が川づくりを絵画に例えたのに続けるならば、本書は正に構図の下書きのようなものです。本書に提案されたとおりに川づくりをすれば良いということでは決してありません。画家が一筆一筆、筆を重ねるように、本書に示された提案を下書きにして現場で川づくりに取り組む皆さんが、常に現場で川と対話をしながら工夫を一つ一つ重ねていただき、より良い川づくりが進められることを切に願っています。

平成 21 年 3 月

河川課長

富岡 誠 司

目次

第1章 基本編	1-1
1.1 多自然川づくりとは	1-1
1.2 愛知県の多自然川づくりのあゆみ	1-4
1.3 アドバイスブックの目的と活用	1-6
第2章 技術編	2-1
2.1 多自然川づくりの基本	2-1
2.2 愛知県の河川特性	2-9
2.3 多自然川づくりのポイント	2-15
第3章 評価編（既往改修箇所の評価）	3-1
新郷瀬川、香流川、新川、生地川、青木川、広田川、砂川、仁王川、 籠川、野田川、蟹江川、善太川、福田川、草木川、鞍流瀬川、逢妻女 川、猿渡川、稗田川、音羽川、西古瀬川（全20箇所）	
第4章 改善編（改修予定箇所の改善）	4-1
新郷瀬川、原川、繁田川、五条川、青木川、広田川、乙川、鹿乗川、 伊保川、巴川、宇利川、蟹江川、善太川、小切戸川、前田川、神戸川、 境川、逢妻男川、森前川、長田川、朝鮮川、拾石川、御津川、梅田川、 汐川（全25箇所）	

巻末資料

謝辞

本書のとりまとめに際しては、吉村伸一氏（株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役）にご指導を賜るとともに、貴重な資料を多数ご提供いただきました。心より厚く御礼申し上げます。



多自然川づくりアドバイスブック

編集・発行 愛知県建設部河川課

2009年4月30日 初版発行

本書についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

愛知県建設部河川課 改修グループ

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL 052-954-6554

FAX 052-953-1457

Copyright © 2009 River Division, Department of Construction, Aichi Prefectural Office

本書の内容・写真等を無断で転記・記載することを禁じます。

航空写真の一部は、イコノス衛星画像 © 日本スペースイメージング株式会社を使用しています。

